



学校教育目標 社会に貢献しながら、
自立する生徒の育成
～気づき、考え、実行する～

やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 健やかな身体の育成
- ④ 豊かな心の育成
- ⑤ 生徒の良さを伸ばし、課題を解決するための「連携・協働」を推進する



1年間を振り返り まとめをしよう

いよいよ3月に入りました。1年間の中学校生活を振り返り、自分の成長を確認しましょう。そして、次年度への目標を立てましょう。

4月から1・2年生は新入生を迎え、上級生になります。より充実した取り組みを期待します。また、校外学習(修学旅行、宿泊学習)も控えています。これらの行事への取り組みを通して、ふるさと道志を考え、社会のルールやマナーを学んでいきましょう。

もうすぐ卒業

旅立ちの時は … 今

道志中学校3年生9名は、3月12日、卒業します。3年生の皆さんと保護者の皆さまに、心よりお祝い申し上げます。

さて、3年生の皆さん、道志中学校で過ごした3年間は、どうでしたか。過ぎてみれば、あっという間ではなかったでしょうか。コロナ禍の中、期待よりも不安の方が大きかった入学式。様々な制限のある中からのスタート。それが、学年が上がるにつれ、活動の範囲が広がりましたね。それから早3年が経ちました。

保護者の皆さまは、どのようにわが子と接してこられましたか。急に口を利かなくなったり、無視や反発したり……。そんなわが子を見て、悩んだこともあったかと思えます。

中学時代は、人生でもっとも難しい時期だといえます。これも発達過程の一場面です。子供の発達には人間関係にも変化をもたらします。この時期、子供は自立への要求を高め、心理的な離乳(子供が親への依存から脱却して、心理的に独立した個人へ成長していく過程:アイデンティティの確立への第一歩)を始め



ます。そのような中で、親等の権威への批判や反発を高めつつ(第二反抗期)、同性の友人との関係を重要なものとしてとらえます。単なる遊び仲間ではなく、より親密な結びつきを求め、心理的な支えや判断・行動の拠り所としての関わりを強めていきます。

ですから、友人関係のつまづきで、心理的にも不安定になります。“大人への第一歩”を踏み出している子供たちですが、それを見守る親や周囲の大人にとってはハラハラ・ドキドキの連続だったことでしょう。



現在、中学卒業後、多くの生徒は高等学校等へ進学します。高校への進学は、教育環境が少し変化する程度かもしれませんが。たとえそうであったとしても、9年間の義務教育は修了します。

そこで、この機会を大きな“節目”としてとらえ、これからはちょっぴり大人として接していくことをお勧めします。ポイントは、“自分のことは自分で決める”を原則にすることです。

しかし、親としてはまだまだ不安であり、心配事もあるでしょう。経済的な自立はもう少し先の話ですから、これからも、時には叱ったり意見を述べたりしながら“子供と一緒に歩む”姿勢を持ち続けましょう。

私たち道志中教職員一同、決して十分とはいえませんが、これまで生徒たちとともに頑張ってきたつもりです。これからも活躍を見守っていきたいと思います。卒業していく9名の皆さんには、どんな未来が待っているのでしょうか。自分の足で、一步一步しっかりと、“前へ前へ”と歩いていってほしいと願っています。

※※※※※ 保護者の皆さまへ ※※※※※

学校だより『やまゆり』へのご意見・ご感想をお聞かせください。子供さんを通して、鈴木まで寄せていただけるとありがたいです。メモ程度で構いません。